

テーマ：パウロの最後の言葉が私たちに教えてくれることは何か？

●コロサイ人への手紙(概要)

「パウロのコロサイ人への手紙は、おそらく新約聖書の中で最もキリストを中心とした書簡です。…この手紙はキリストが最高位のお方であること、キリストの働きが信仰者にとって十分であること、キリストの支配がクリスチャン生活のあらゆる面に適用されることを明確かつ熱心に論じているのです。」

○最後の挨拶に見られるパウロの思い：

1. 兄弟姉妹に対する _____ (15-17)

▶「よろしく言ってください」

※コロサイ 2:1

「あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。」

※ピレモン 2

「また、姉妹アピヤ、私たちの戦友アルキボ、ならびにあなたの家にある教会へ。」

※コロサイ 3:11-12

「…ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。」

※ガラテヤ 3:28

「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。」

2. キリストに対する _____ (18a)

※ピリピ 1:12-14

「さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかになり、また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主において確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。」

※2 テモテ 2:9

「私は、福音のために、苦しみを受け、犯罪者のようにつながれています。しかし、神のことばは、つながれてはいません。」

※コロサイ 4:3

「同時に、私たちのためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。この奥義のために、私は牢に入れられています。」

※ピリピ 3:7-8

「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。…」

「パウロの手は、拘束していた兵士に鎖で繋がれていました。しかし、そんな彼が自分の苦しみに言及したのは、同情を求めるためではありません。権威の主張であり、自身に語る権利があることの保証でした。まるでこう言っているかのようです。『この手紙はキリストに仕える意味を知らない人からのものでも、自分自身に覚悟のないことを他人に求める人からのものでもありません。これはキリストのために自ら苦しみ、犠牲となった者からの手紙です。私が語ることができるのは、ただ私自身もキリストの十字架を背負ってきたそれゆえなのです。』」

3. 恵みに対する _____ (18b)

※ガラテヤ 6:18

「どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、兄弟たちよ、あなたがたの霊とともにありますように。アーメン。」

※エペソ 6:24

「私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。」

※1 テサロニケ 5:28

「私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたとともにありますように。」

※2 テモテ 4:22

「主があなたの霊とともにおられますように。恵みが、あなたがたとともにありますように。」

※ローマ 3:23-24

「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

※エペソ 2:8

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」

※1 コリント 15:10

「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」

※2 コリント 12:9-10

「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」